

すべての児童に『運動の楽しさやできる喜びを味わわせる』体育の授業
～4年間の研究実践を通して～

郡山市立安積第三小学校 教諭 草野 節生

1 研究の趣旨

現在、子どもたちの体力の低下や運動の二極化が大きな問題となっている。そこで、体育の学習において、児童の実態に応じた場を工夫し、友達との関わり合いを深めながら運動の楽しさやできる喜びを味わわせることで、「生涯にわたって運動に親しもうとする資質や能力」を育成していきたいと考え、本研究に取り組むこととした。

2 研究の概要

(1) 目指す子どもの姿

- ◎ 運動の特性に触れながら、進んで運動しようとする子ども
- ◎ よい動きを見つけ、課題をとらえて教え合ったり、補助し合ったりする子ども
- ◎ 互いのよさや頑張りを認め合う子ども

(2) 研究の視点と手だて

以下の視点に基づいて具体的な手だてを設け検証を進めることとした。

- ① 視点1『追究』～運動の特性に触れながら、進んで運動しようとする態度の育成～
 - 場の設定（ローテーション）の工夫
 - 技能のポイントの明確化
 - 感覚を養い、体幹を鍛える体操の導入と自校化
- ② 視点2『つたえ合い』～よい動きを見つけ、課題をとらえて教え合う力の育成～
 - よさを話し合う時間の設定
 - お互いの様子を知らせ合ったり、補助し合ったりできる場の工夫
- ③ 視点3『みとめ合い』～互いのよさや頑張りを認め合う態度の育成～
 - グループ編成の工夫

(3) 研究方法

- ① 研究対象 橘小学校 平成20年度 1年2組 （以降、継続して4年間）
- ② 検証方法 視点にもとづいた実践を重ね、「授業の観察」や「学習カード」、「実態調査」などを通して検証を進めた。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 4年間の実践を通し、それぞれの学年に応じて運動の感覚を養ったり、技能を身につけさせたりすることができた。あらためて、低学年は「楽しさ」、中学年は「基本の動き」といった発達段階や系統性を重視した指導が大切であることがわかった。
- ② 一つの技を身につけることが児童の「できた」という喜びとなり、一人一人に運動への自信をつけさせることができた。このことが、発展的な技に意欲的に挑戦する姿へとつながっていた。
- ③ 朝や休み時間など、子どもたちは時間を見つけては、毎日のようにマット室に来ている。そして、鉄棒運動やマット運動、なわとびに夢中になって取り組んでいる。手や足の皮がむけてもやり続ける姿は、心から運動することを楽しんでいる姿の表れであるといえる。

(2) 今後の課題

- ① 学年が上がるにつれて場の設定が複雑になり、準備に時間がかかったり、指導が徹底されなかったりした。「いつでも、誰でも、簡単にできる」場を、工夫していく必要がある。
- ② 震災や原子力発電所事故の影響で体力低下が避けられない環境の中、これまで以上に、学校全体として体力向上や技能の向上を目指していかなければならない。